PENTAS Magazine

vol.2

対談
高野 登
人とホスピタリティ研究所 代表（元リッツカールトン日本支社長）
杉山 歩
山梨県立大学国際政策学部 准教授

特集
田子 學
（株）エムテド 代表取締役 アートディレクター、デザイナー
家安 香
Edelkoort East（株） 代表取締役
新居 みどり
（特非）国際活動市民中心（CINGA） コーディネーター
田中 友悟
（一社）山梨市ふるさと振興機構代表理事、山梨県立大学特任助教

PENTAS YAMANASHI
山梨県立大学
大学による地方創生人材教育プログラム構築事業

PENTAS YAMANASHIとは?

「PENTAS YAMANASHI」は、「VUCA時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム」の事業通称名です。PENTASは夏に星形の花を無数に咲かせる常緑性の宿根草で、花言葉は「希望が叶う」「願いごと」「博愛」です。
英語では星形の花が半球状に咲く様子から「Star cluster(星団)」とも呼ばれています。本事業を通して、受講生の皆さんが山梨の地からそれぞれの希望を叶えていくことを願って、この名称がつけられました。

全体のコンセプト　ARTとSCIENCEの精神を兼ね備えた創造的課題解決人材の育成

学生の能力開発、進路相談、実践活動、資格取得といったキャリアに関わる教育プログラムを学部主導の学士課程教育とは別に設計し、地方創生人材育成のため大学・企業・自治体・関係団体で協働的に実践教育を行うシステムを構築しました。
また、「Volatility (変動性・不安定さ) Uncertainty(不確実性・不確定さ) Complexity(複雑性) Ambiguity(曖昧性・不明確さ)時代を自由に越境する術」の習得により、学生自身が今後のキャリア形成において、社内起業・新企画開発などが行える高付加価値人材となる教育プログラムを構築し、スキルアップを目指す社会人に対しても展開し、学生・社会人の垣根を超えた地方創生人材の育成に取り組みます。

ARTとは?
自然を模範とし、美の精神で未来を創造する力

SCIENCEとは?
物事の本質を突き詰め、一般化する力

VUCA時代とは?
過去から未来が見通せない
- 形式知(前例主義)が通用しない
- 観察からプランを練り、トライする

形式知が役立たない?
実践知を学ぶ場の創出

山梨県立大学は何を教えるべきか?

学　生に対して…専門性の高い職業への橋渡し(漠然と事務職希望では通用しない)
社会人に対して…VUCA時代の伴走サポート(キャリアアドバイス)
企　業に対して…付加価値を生み出す社員の育成

専門性　キャリア支援　創造性

2021年度 人気NO.1講座

「日本ワイン歴史マイスター養成講座」

担当講師 **仲田 道弘**　(公社)やまなし観光推進機構理事長 山梨県立大学特任教授

日本で唯一、歴史を通して日本のワイン文化を学ぶことのできる講座です。世界のブドウの歴史、中国ワインの歴史、そして古代から現代に至るまでの日本のブドウとワインの歴史について1000枚を超えるスライド資料でビジュアル的に学びます。特にこれまで体系的でなかった明治時代のワイン造りについては、14人の挑戦と情熱を伝えます。間違いなく日本ワインの歴史観が変わる瞬間を体験でき、きっと、私たちがこれから進むべき方向性が見えてくるでしょう!

昨年の受講者の感想

ワイン愛好家(山梨県)
講座は毎回ワクワクするもので、想像を越えるスケールの大きなものでした。たくさんの方々の苦労を学びましたが、桂二郎氏と川上善兵衛氏が特に印象に残りました。今、美味しいワインが頂けるのは先人たちの熱い気持ちと挑戦の歴史と思うと、改めて有り難くなりました。たくさんの資料と写真で分かりやすく楽しみながら学ばせて頂きました。

シニアソムリエ(東京都)
今まで私は、書物等を中心に日本ワインの歴史を学んだつもりになっていました。でもこの講座を受けて、年号や出来事を記憶する勉強方法では全然ダメだという事に気が付きました。人が造るワインですから、人が何を考え何を望んだ結果なのかを想像するのがとても大切で、それこそが本当に歴史を理解するという事だと感じました。

ワイン醸造家(山梨県)
生産現場にいてもここまで詳しい知識は持ち合わせていなかった。どれほど様々な人物や地域、国や民間の思惑が関わっているのか。どれほどの情熱があったのか。そしてその一つ一つが現代のワインに連綿と続いているのだと思うと、小さな醸造所を営むこともまた壮大な歴史の流れの中にいるのだと意識せずにはいられなかった。

※2022年度も開講予定。詳しくはHPへ。

対談

高野 登さん

人とホスピタリティ研究所代表
（元リッツカールトン日本支社長）

杉山 歩

山梨県立大学 国際政策学部 准教授
PENTAS YAMANASHI 教育プログラム長

2021年6月から開講された「VUCA時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム」も全ての講座が終了。その中で「おもてなしマイスター養成講座」を担当した高野登氏とオンライン対談を実施しました。長年国内外で活躍してきた観光業界のトップリーダーが語るアフターコロナに必要な新たな観光人材とは？誰もが不安を抱えながら生きている時代だからこそ、優しさあふれる前向きなメッセージが先の見えない今を生き抜いていく希望を与えてくれます。

大切なのは学びを通して成長し続けていく姿勢。
今こそ日本の観光事業の本質を見直し、
新たな時代を担うリーダー像を考える。

杉山 歩（以下、杉山）：高野登先生には山梨県立大学で8回の講義を担当していただき、どうもありがとうございました。観光という枠にとどまらず、学生たちは人生において多いに刺激をいただいたようです。

高野 登さん（以下、高野）：観光は「光を観る」と書きますが、その「光」とは何かというと「人の営み」。甲州人としてこの地域での生活や営みを丁寧に見てもらうことこそ、本来の観光の意味だと考えます。そこには自分たちの学ぶ姿勢や日々いろいろなものに向き合う姿勢など全てが含まれるんだよ、ということが学生たちに伝わっていれば嬉しいです。

杉山：私は地方を元気にする教育をしたいと考えていて、山梨県立大学では地域と結びついた新しい教育に取り組んでいること、こんなに面白くて刺激的な講義が受けられるということを学生にも社会人にも知ってもらいたい。そこで、今回は日本の観光の第一人者である高野先生にお願いしました。長年アメリカで学ばれてきた高野先生ですが、アメリカに渡ったのは何かきっかけがあったのでしょうか。

高野：日本のホテルスクールに在籍していた時、修学旅行でカナダとアメリカの各所を巡りましたが、アメリカの農村風景の圧倒的なスケール感に打ちのめされ、卒業と同時にこの国で働きたいと強く

「異文化」はリトマス試験紙 人間の本質があぶり出される

高野 登さん

思ったのがきっかけです。縁あって卒業後は北野建設に入社し、ニューヨークのキタノホテルに出向という形で渡米が決まりました。アメリカに行ってわかったことは、海外で学ぶには日本でのベースがないと何もできないということ。当然その土地の言語でコミュニケーションがとれることは必須条件ですが、国際人としてグローバル人材として絶対的に必要であり海外で圧倒的に支持される唯一の資質、それは何だと思いますか。

杉山：「ユーモア」でしょうか。

高野：そのユーモアはどこからくるか。ユーモアも大切ですが、人間の資質として考えるとそれは「優しさ」なのです。人種を超えて大勢の人と付き合っていく中で必要なもの、最後に人の気持ちを動かすのは「優しさ」という概念だと、海外の生活の中で気付かされました。「優」は人を憂うると書き、「優秀」な人は優しさに秀でた人なのです。優しさこそ最も大切で必要、それは世界のどこに行っても共通だと思います。

人の気持ちを動かすのは言語を超えた「優しさ」

杉山：北陸先端科学技術大学では、外国人の中に日本人は私一人だけという研究室にいました。語学はあまりできませんでしたが、日本に学びに来ている彼らに日本人としての価値観やしきたりなど自分の考えをきちんと伝えていたら受け入れられるようになり、いろいろな国の人と仲良くなれました。私も異文化コミュニケーションに必要なのは、語学力ではなく優しさだと感じた経験がありますね。

高野：異文化の中に飛び込むと身をもってわかりますよね。現在のコロナ禍も同様、その環境や経験が人格を形成するのではなく、その状況下で人格や本質が露わになるのです。特に異文化というのはリトマス試験紙のようなもので、自分の本質があぶり出される気がしますね。

杉山：日本に帰ってきてからはマネジメントクラスでの仕事が多かったとは思いますが、どういう形でアメリカでの経験を活かしてきましたか。

高野：その経験を活かしきれているかどうかはわかりませんが、20年間異文化の中で過ごし、宗教的にも文化的にもありとあらゆる価値観の中に飛び込んで身についたこと、それは「言葉を大切にする」ことです。自分の思いを丁寧に誠意をもって時間をかけてきちんと伝えることの大切さ。特にリーダー的な立場になると、自分が発する言葉で相手に動いてもらい、業務を円滑に進めていかなければならない。自分が望む結果を得られるまで、言い方や視点を変えて工夫してわかりやすく伝えていかなければなりません。その上で、能力や知識だけでなく信頼や尊敬が得られなければ、いくら言葉で伝えても人を動かすことはできないのです。

杉山：それでは、日本の観光において高野先生が考える一番大切なことを教えてください。

高野：山梨は県庁の中に非常に良いリーダーがたくさん育っていて、観光地としてとてもラッキーなところ。山梨はリーダーが育ちやすい環境なのですね。私がいたザ・リッツ・カールトンのホテルスタッフたちもどんどん自分を発信しながらお客様をハッピーにする働き方をしています。それは観光事業の一番根底にある重要な部分で、「訪れる人が来る前より幸せな気持ちになって帰ってもらうこと」にエネルギーを注いでいる。幸せな働き方をしている人に触れた人たちはとても幸せな気持ちになって、またここを訪れたいと思う。心の奥深くに残る思い出はその土地で出会った人、その人間力、地域の人たちと過ごした時間なのです。

観光事業の根底には「人間力」が最も重要

杉山：私も観光地は訪れる人の明

日の活力につながるようなものを提供することが大切だと思っていますが、日本の最も代表的な観光地である京都はオーバーツーリズムによる住民サービスの低下が問題になっています。このことについてどう思いますか。

高野：観光においてちょうどいい人数が来てくれるかというのは永遠の課題であり、それは地方自治体の在り方にもつながるし、いろいろな観光地が京都と同じように間違った方向に進んでしまう可能性があります。京都は魅力のありすぎる街であるがゆえ、入り口を誤ってしまったのでしょう。そもそも京都はなぜ存在しているのか、歴史的・文化的・宗教的な京都の位置付けやその魅力を再認識した上で、「京都を通じて学ぶ」ということを観光の柱にして、京都らしい発信力も大切にするべきでした。地域観光の一番大切なことはブランディングを間違えないこと。それぞれの魅力に当てはまるブランドをきちんと創っていけば軸はブレないと思います。

杉山：私はフィールドワークで学生を連れて京都に行きますが、実際京都の街は歩く度に学びがあってとても楽しいですよね。

高野：京都はちょっと路地を入るだけでもたくさんの発見や出会いがあり、本当にたくさんの魅力がある街。私は地元の旦那衆と仲良くなり、表面的な観光では見えない、本来の京都が持っている奥深さや底力を知りました。京都の街の裏側には我々庶民には想像もつかない世界が広がっていて、伝統的な京文化の奥深さに震えましたね。日本の中にもありとあらゆる多様性があり、自分の中の基準で価値観を判断してはいけない。地域の本質的な部分を知るには何度も通い、地元の人と交流し、謙虚な姿勢で教えてもらうことが大切です。

杉山：山梨でも良い人材が育っているというお話がありましたが、今国内で魅力ある地域を考えた時、都市部も地方もあまり関係なくなっている気がしますが、高野先生から見て活力のある地域はどこですか？

高野：海外を見てみると、地域に活力をつけるために動いている国があるでしょうか。ありませんよね。ヨーロッパやアメリカの人たちは、それぞれが自分を持っていて、自分で決めて行動している。それに比べて、日本人は日本でどういう生き方をしていきたいのかがブレてしまっている。世間という枠の中でがんじがらめになり、同調圧力の中で自分の行動を律して疲れてしまっているのが日本の社会。江戸時代の日本人はもっとのびのびしていたと思うのです。しかし、戦後のアメリカに対する敗北感と自己肯定感の低さから、誰かが決めたことに従ったほうが責められず失敗がないという考えを植え付けられてしまった気がしてならない。

杉山：最近の大学生を見ていると、人前で他の人と違うことを言ってしまうことが怖かったり、人と違うことが不正解だと思っているようです。

高野：大学での講義で質疑応答の際に誰も手をあげないので、「これから社会に出て組織の一員となった時、自分の考えを表に出せなかったり、自分の考えがないと捉えられることは致命的なくらい恐ろしいことなんだよ。だから今のうちにトレーニングしておこう」と話したのですが、なかなか手が上がらない。その理由を聞いてみたら、SNSで拡散してしまうことや当事者になることへの恐怖感があり、発言しないことこそ安全だと聞いて、そういう時代なのかと愕然としました。安全という保障がないと自由に発言できない、人の感性を壊してしまうネット社会のマイナス面を見た気がしました。日本人の一番大切な人間力とか優しさがどこかに置き去りにされてしまっている気がしてならない。これは寂しいですよね。

杉山：地方創生と言われている現在、大学は何を学生たちに教えて

訪れる人の明日の活力を提供する それが観光地の大きな役割

杉山 歩

いけばいいのでしょうか。

高野：まさに「企画力」です。これからは人を動かす企画をつくれる力があるかどうかが重要になります。働いている人たちを動かすようなワクワクする企画力。あくまでも「計画」ではなく「企画」なのです。人を動かす企画というのは、人と人との出会いを生み、それが具体的なビジョンや理想となり、その実現に向けて行動を起こすことができるようになります。

人をワクワクさせる「企画力」を磨き上げる

杉山：全員がビジョンをもつというのはなかなか難しい気がしますが、トップが明確なビジョンを持っていればいいのでしょうか？

高野：だからこそ、「人の心を動かす企画力」が大事になります。人はワクワクしなければ動かない。ワクワクするような環境をつくることです。そのワクワクがエネルギーを生み、相乗効果につながり、業種や分野を超えて多くの人を巻き込んでいく。そのためには、外部への発信力を個々が持っていること、いろいろなものや人が総合的に連携した時にどんな効果が生まれるかを分析する力、この両方が必要です。

杉山：観光という分野だけにとどまらず、いろいろな業種と連携することが必要なのですね。

高野：そうです、農業だって重要な観光資源になりうる。信州のリンゴ畑やあんず畑を見るために大勢の観光客が訪れますからね。私は蕎麦打ちが好きなので、蕎麦の花には毎年感動します。

杉山：高野先生が考えるポストコロナの展望をお聞きしたいです。

高野：一番大切だと考えているのは「リーダーシップ」。まずは自分自身の人生のリーダーになる。そして、もう少し頑張って偉大なリーダーになろうよ！と伝えたい。偉大なリーダーとは、人が抱える大きな不安に対して、自ら毅然と立ち向かえる姿勢を示せる人。現在コロナ禍で多くの人が不安や恐怖を抱いていますが、この状況にしっかりと向き合い「この時期に力をつけたらこの先に幸せな未来が待っている、きっと良い人生を送れるよ」と語り続けられるような人ですね。そして、リーダーシップとは「奉仕」。真のリーダーとは、自分の利益よりチーム（社会）の利益を優先できたり、自分が住んでいる地域や仲間たちを大切に思い、地域に住んでいる人たちに優しい眼差しを向けられる人です。複数の人たちの優しさや奉仕が集まり、つながり、広がっていく。こういう自然の流れが地域社会の本来の力だと思います。

杉山：現代の社会は学生たちに働くことを自己実現のように捉えさせている感があるので、私は働くことは社会貢献であると学生たちに伝えています。英語が得意なら自分の英語を活かしたパフォーマンスで社会に貢献すればいいし、絵が上手なら絵を描くことが社会貢献につながるかもしれない。そうやって仕事を決めればいいのに、順番が逆になっていて、学生たちが苦しんでいる気がします。奉仕の気持ちがないと社会が回っていきませんよね。

高野：人はなぜ働くのかを考えると、当たり前のことですが「幸せになるため」なのです。それぞれが働くことで人の役に立ち、感謝されて、成長ができる。それが理想的なサイクルで究極の自己実現。自分を肯定しながら自己実現をして、次の世代まで育てることができたら理想的ですね。

杉山：私は社会人こそ大学の講座を受けて学んでほしいと思っていますが、高野先生にとって社会人としての「学び」とは。

高野：大学生はおそらく一番多く本を読む時間をもてる時期だと思いますが、社会人になって就職するとその習慣がなくなってしまう人が多い。就職後、ポジションが上がっていくにつれてもっと本を読む時間が増えていくべきで、読まなければならない本も増えていくはずなのにもったいない。人は学びに対する意欲がなくなった時、成長が止まって劣化してしまう。「体は老化しても脳や感性は死ぬまで進化し続ける」と日野原重明先生に教えてもらいました。時間がなければ全部熟読する必要はなくて、大切な部分だけでもきっちり読んでおけばいい。本を読んだりセミナーや研修を受けたり、劣化しないための自己投資は続けていくべきだと思います。

杉山：だからこそ山梨では社会人が学びたいと思った時に気軽に大学に足を運べるような環境をつくっていきたいと考えています。

高野：それは地域の人たちにとってはものすごく幸せな環境ですね。学びたいという思いを持っている人や学びたくてもどこへ行けばいいかわからない人に学びの環境を提供してあげることこそ本物の「優しさ」だと思いますよ。

多彩な実務家教員のラインアップ

嶋津 幸樹

タクトピア(株)
ELT(英語教育開発推進事業)ディレクター

担当科目
グローバルマインドとスキル

長谷部 賢

(一社)日本ソムリエ協会
理事

担当科目
料理とワインのマリアージュ 他

新井 達司

山梨県立博物館 副館長
「やまなし通訳ボランティアネット」役員。「全国通訳案内士(英語)」「ソムリエ協会ワインエキスパート」

担当科目
通訳入門実践

宮下 大輔

(株)可不可 代表取締役社長
レストランプロデューサー
ワイン県やまなし美食ブランド創造アドバイザー

担当科目
ローカルガストロノミー論

内田 研一

(一社)微細加工工業会事務局長
(株)微細切削加工研究所執行役員
Forbes Japan Small Giants 審査委員長

担当科目
企業がチャレンジする経営革新 他

中矢 一虎

中矢一虎法務事務所
(司法書士・行政書士)代表

担当科目
国際貿易実務

沢田 貴志

神奈川県勤労者医療生活協同組合
港町診療所所長

担当科目
多文化対応人材育成演習(保健・医療・福祉)

錦織 信幸

世界保健機関(WHO)
グローバル
結核プログラム医官

担当科目
保健医療福祉における文化理解 他

山野 靖博

俳優
声楽家

担当科目
芸術活動をとおした多様性協働プロジェクト

中原 和樹

舞台演出家
脚本家

担当科目
芸術活動をとおした多様性協働プロジェクト

ピッチフォード理絵

(特非)青少年自立援助センター
多文化コーディネーター

担当科目
多文化対応人材育成演習(教育)

齊藤 浩志

山梨県リニア未来創造局リニア未来創造・推進課
課長補佐

担当科目
ビジネス共創実践

今井 久

(公財)山梨総合研究所
理事長
山梨県立大学特任教授

担当科目
地域しごと概論(経営マインド) 他

戸田 達昭

ヴィジョナリーパワー(株)
代表取締役 CEO
山梨県立大学特任准教授

担当科目
アントレプレナーシップとスキル 他

舩木 上次

萌木の村(株)
代表取締役社長
山梨県立大学特任教授

堀内 久雄

富士大石ハナテラス
広報本部長
山梨県立大学特任教授

担当科目
地域のチャレンジ1・2 他

仲田 道弘

(公社)やまなし観光推進機構理事長
山梨県立大学特任教授

担当科目
日本ワイン歴史マイスター養成講座 他

手塚 伸

(公財)やまなし産業支援機構理事長
山梨県立大学特任教授

担当科目
企業におけるレクチャーと現場研修 他

佐藤 文昭

(公財)山梨総合研究所
調査研究部長
山梨県立大学特任教授

担当科目
事業づくりの技法・政策づくりの技法 他

弦間 正仁

(公財)山梨県国際交流協会事務局長
山梨県立大学特任教授

担当科目
多文化共生の現場を歩く 他

水上 篤

農業生産法人(株)hototo代表取締役
山梨県立大学特任教授

担当科目
VUCA時代のキャリアレジリエンス

田子學

(株)エムテド代表取締役 アートディレクター、デザイナー

担当科目 イノベーション創造の基礎と実践、ブランディング基礎と実践

地域にはその土地特有の環境を背景とした暮らしの知恵が生まれ、文化や産業が発展しています。そのため、その土地の魅力に着目するには、地域のポテンシャルを改めて見つめ直すことが重要だと思っています。
山梨はユーラシアプレート、北米プレート、フィリピン海プレートの活動によって生まれた甲府盆地を有します。他に類をみない深い盆地構造をしていることや、噴火物や河川氾濫堆積物が蓄積した地質であることによって、果樹の育成にも多大な効果と影響を与えています。山梨らしさを表現した個性あるワインとはこうした背景によって生まれます。
生育地の地理、気候、それに由来する土壌や農業技術といった土地特有の性格を表す「テロワール」と呼ばれる言葉がありますが、私は農業分野に限らず、あらゆる産業で「テロワール」があてはまると考えています。
2030年までの目標達成を掲げた持続可能な開発目標「SDGs」への取り組みが当たり前となった今日、環境、社会、人にとって本当に必要な事とは何かに向き合いながら、企業のみならず個人でも未来を考える時代になりました。
だからこそこれからの地域産業では、その土地にしかできない強みをしっかりと把握しなければなりません。他の土地ではできない価値を設計に織り込んでゆくことで「ブランドプロミス」を形成し、結果として持続可能な揺るがぬ産業構造を生むことにつながるのだと感じています。

PROFILE

企業や組織デザインとイノベーションの研究を通し、広い産業分野においてコンセプトメイキングからプロダクトアウトまでをトータルにデザインする「デザインマネジメント」を得意としている。ブランディング、UX、プロダクトデザイン等、一気通貫した新しい価値創造を実践、実装しているデザイナー。国内外のデザイン賞受賞歴多数

特 集

PENTAS YAMANASHI 注目教員が語る!

田中友悟

(一社)山梨市ふるさと振興機構 代表理事、山梨県立大学特任助教

担当科目 ワークショップデザイン、まちづくりの思想と技術、ローカルデザイン実践演習

地方をフィールドにまちづくりに携わりはじめて早10年になる。土地ごとに異なる歴史や文化に触れるたびに、その時間的厚みこそが創造性の源泉ではないかと思わずにはいられない。
「地方」という言葉は、中央としての都市に対する周辺空間を指す表現だ。かつてそこにはある種のヒエラルキーがあったものの、現在の情報環境ではマスカルチャーはどこでも享受可能となり、私たちは場所による情報格差から解放されつつある。そうなった今、文化の生成力は足場としての強度が高い「地方」にこそあるのではないだろうか。
丸石信仰に代表されるように、山梨は遥か昔からの文化・精神構造が多く現存する稀有な土地だという。一方で、甲斐の国の語源は、かつての「交い(交流)の拠点」に由来していると聞いた。独自の文化を有しながらも異文化との関わりのあった山梨は、新しい文化醸成に適した場所だといえよう。
近年は何事にもストーリーが重要だといわれるが、全てを自らがコントロールした「自分の物語」の演出には面白みがない。知らなかった世界から受けとる新たな気づきや、効率性とは対極にある猥雑な文化にまみれることでしか開かない道が確かにある。学生の皆さんがこれから歩む人生において、自らの軸をもちながらも、世界を支える様々な文脈と絡まり、それらを束ねていくような柔軟な生き方はきっと大切になる。
PENTAS YAMANASHIは、豊かな文脈で溢れた山梨という地を足場に、これからの社会や世界をつくる知と出会う場所だ。不確実な時代を生きる私たちに求められる、足もとへ深く潜る術と、境界を自由に飛び越えていく力を多くの方々と共に探求していきたいと思う。

PROFILE

Hasen inc 代表取締役、一般社団法人山梨市ふるさと振興機構 代表理事、山梨県立大学特任助教。1992年生まれ。龍谷大学政策学研究科修了。大学院にてまちづくりのデザインプロセスを研究する傍ら、地域づくり系シンクタンクにてコミュニティデザインに従事。2017年からは、山梨県山梨市の文化資源の販売・自治支援にも取り組む。現在は主に山梨、京都、兵庫を拠点に、事業開発とクリエイティブ制作によるまちづくりの実践・探究を行う。

Edelkoort East（株）代表取締役

担当科目 トレンド予測の手法

家安香

地方は可能性の塊です。しかしその可能性に花を咲かせるには地方という名称を使うことをやめるべきかもしれません。諸説ありますが、江戸時代の町方に対しての地方（じかた）があり、そこには常に都市に対するものという立ち位置が見え隠れしている気がするからです。時代は大きく動き、人は変わり、今地球規模で意識をリセットする必要に迫られていて、さもなくば未来を考えることなど無意味な地点まで到達しています。山梨が持つもの。歴史、人の性質、環境。今現在の時点でプラスと思われているものもマイナスと思ってしまっているものも、既存概念は忘れ、ワクワクする素材として見つめること。その視点で自分たちがより良いと思える明日はなんだろう？自分たちにしかできない、描けない未来はなんだろう？世界に、未来にどのような貢献ができるのだろうと考えること。自分自身の足元を見つめる棚卸は緻密に、未来を見つめる目や思いを馳せる想像の翼には壁をつくらず。それができた時に“地方”山梨は世界一の場所になると思います。というのは私はすでに山梨をそういう目で見つめてきて、明日の可能性を感じているからです。それは地方だからではなく、都会からのエスケープ場所としてでもなく、山梨だからこそ、です。この謎解きをしたいと思えるかどうかで、価値が変わります。

PROFILE

バリに本社を構えるTRENDUNIONの日本支社として家電やサービス、ファッションなど多岐にわたる国内有数の企業はもちろん海外のクライアントに対して個別のブランディングやデザインディレクションを行う。ブルガリジャパンで得たジュエリーの知識、フェリシモでの通販企画において売れる商品デザインとコミュニケーションを担当し、海外ではロンドンのインテリアオフィスでのプロジェクトなど幅広い経験を持つ。

「自分にとっての地方とは？ 山梨とは？」

（特非）国際活動市民中心（CINGA）コーディネーター

担当科目 多文化共生地域課題（多文化社会における対人援助/外国人と人権）

新居みどり

私と山梨との本格的な出会いは、2019年に山梨県が設置した「やまなし外国人相談センター」（甲府市飯田2-2-3　山梨県立国際交流センター2F）の立ち上げ支援事業に関わったことにはじまります。それ以前にも、山梨を訪れたことがありましたが、センターに向かうために甲府駅に着き、駅前ロータリーからみた南アルプスがとても美しかったこと。その凛とした姿に、これからはじまる山梨の外国人支援にしっかりと向き合わねばと思いました。

山梨には2021年時点で95の国と地域の約1万7千人の外国人が暮らしています。同じ住民として、山梨の地で生活を営んでいます。外国人は東京のような大都市に暮らしていると思われますが、地方にこそ、その数は増えています。少子高齢化を受けて、大切な働き手として製造業や農業、そして介護領域などで仕事をしておられます。

ある山梨在住の外国人とお話をしたら、山梨が好きだと話されていました。海外でも有名な富士山があり、そして、美しい山が見えること。自分の国も山に囲まれてて、山梨にいると、この山々に癒される、これからも山梨に暮らしたいと話されていました。

世界がつながりグローバル化が進む中、縁があって山梨に暮らす外国人もまた同じ住民です。この地方において、共に地域づくりをする担い手です。世界と日本がつながっているように、ここ山梨も世界とつながっています。わたしは、そんな山梨に暮らす人びとが互いの違いを認め合いつつ、共生の地域づくりができように、山梨における多文化共生の担い手の皆さんの学びをお手伝いしたいと思っています。

山梨には「無尽」という習慣があるとききました。この助け合いのこころこそ、いま世界中で、また多文化共生社会の実現のために求められているものではないかと思います。

PROFILE

早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻修了。東京外国語大学多言語多文化教育研究センター、国際移住機関（ＩＯＭ）コンサルタントを経て、現在はCINGAにて事業コーディネーター。CINGA受託の東京入管主管「外国人総合相談支援センター」、外国人技能実習機構母国語相談コーディネーター。法務省「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」に関する有識者会議委員

PENTAS YAMANASHI
5つの教育プログラム

各プログラムのVUCA科目、学部等開講科目（参加大学 学生のみ）、技能科目、実践科目より所定の単位数を取得した者に修了証が授与されます。
修了要件は学生と社会人で異なります。

参加大学学生 18単位以上（VUCA科目3単位、学部開講等科目8単位、技能科目3単位、実践科目4単位）

社 会 人 等 10単位以上（VUCA科目3単位、技能科目3単位、実践科目4単位）

※「次代を担うアントレプレナー養成プログラム」は、学部等開講科目はなく、学生・社会人ともに9単位以上を取得した者に修了証が授与されます。
※プログラム修了証は、事業協働機関とともに発行いたします。

PENTAS YAMANASHI カリキュラムツリー

	5プログラム共通科目	観光高度化人材育成プログラム		地域づくり加速化人材育成プログラム	
6000 応用			●日本ワイン歴史マイスター養成講座		
5000 基幹（専門分野）			●通訳入門実践 ●実用中国語	●ワークショップデザイン	●事業づくり実践演習 ●政策づくり実践演習
4000 基幹（汎用）	●地域しごと概論（地域づくり） ●問題発見の技法	●地域資源の保全と活用	●ローカルデザイン実践演習		●ローカルデザイン実践演習
3000 基礎（専門分野）	●グローバルマインドとスキル ●地域しごと概論（経営マインド）	●料理とワインのマリアージュ ●ローカルガストロノミー論	●事業づくりの技法 ●ネイチャーガイド演習1 ●ネイチャーガイド演習2	●情報発信の手法	●事業づくりの技法 ●政策づくりの技法
2000 基礎（汎用）	●VUCA時代のキャリアレジリエンス ●地域のチャレンジ1 ●地域のチャレンジ2	●まちづくりの思想と技術	●おもてなしマイスター養成講座 ●観光実践マネジメント講座	●まちづくりの思想と技術	
1000 入門			●やまなしワイン入門講座		
	VUCA科目	技能科目	実践科目	技能科目	実践科目

観光高度化人材育成プログラム

地域資源の活用方法を学び観光の高度化を図ることができる人材を育成するとともに、新たな地域資源を対象に教育プログラム化し、実務家や専門家から本県の自然・歴史文化財の活用方法を学んでいきます。

- ▶地域資源を活用した先進事例の紹介
- ▶ワイン県ならではのワイン関連科目
- ▶自然環境のマネタイズ手法を学び、自然文化からの価値創造を図る
- ▶観光業で活かせる語学力とホスピタリティマインドの醸成

地域づくり加速化人材育成プログラム

地域づくりの中心を担い、社会変革力の醸成を担う事ができる人材の育成を目的に、更なる地域住民との交流・対話の場を設け、実践的な授業を展開していきます。

- ▶高い志をもった公務員育成
- ▶ハイレベルなコンピテンシーを身に付けた人材の育成
- ▶地域の課題を発掘する手法の習得
- ▶実践的な企画立案能力の醸成

NEW

ビジネス構想力・経営マインド醸成プログラム

県の基幹産業である製造業等において求められる人材を育成するため、実務家教員を最大限活用し、新規でビジネスを構想する力を養うとともに、経営マインドの醸成を図ります。

- ▶企業がチャレンジしている経営革新の紹介
- ▶食を通じた地域経済への貢献手法
- ▶事業計画の作成やイノベーション創造までの実践的手法
- ▶トレンド予測やブランディング等、ビジネス構想力の醸成

NEW

多文化共生対応人材育成プログラム

医療・福祉・教育の現場の国際化・多文化化の課題を理解し、解決するための方策を見出すことのできる人材を育成します。

- ▶多文化共生の現場を訪問
- ▶多様な背景をもつ人々とのコミュニケーション力の醸成
- ▶芸術をとおした多様な人々との協働の体験
- ▶多文化化する保健・医療・福祉現場で活躍できる人材育成

NEW

次代を担うアントレプレナー養成プログラム

自らの課題をビジネスの手法で解決する能力を養い、「起業家精神」を有する人材を養成するとともに、学生と社会人が相互に学び合い、新たな視点で事業を構想することのできる場を提供していきます。

- ▶起業家（実務家教員）による実践的な授業
- ▶世界で通用するビジネススキルの獲得
  （山形大学アントレプレナーシップ育成プログラムの活用）
- ▶ビジネスプランコンテストへの出場とマルチステークホルダーによるメンタリング

ビジネス構想力・経営マインド醸成プログラム		多文化共生対応人材育成プログラム		次代を担うアントレプレナー養成プログラム	
			●多文化対応人材育成演習（保健・医療・福祉） ●多文化対応人材育成演習（教育）		
●国際貿易実務	●企業におけるレクチャーと現場研修	●保健医療福祉における文化理解			●ビジネス共創実践
	●イノベーション創造の基礎と実践 ●ブランディング基礎と実践	●多文化共生地域課題（多文化社会における対人援助/外国人と人権）	●地域課題プロジェクト（多文化共生イベント企画）		●アイデア共創実践
●ローカルガストロノミー論	●トレンド予測の手法	●多文化社会とことば	●多文化共生サービスラーニング	●グローバルビジネススキル	
●企業がチャレンジする経営革新	●事業計画づくりワークショップ	●地域課題解決（多文化共生）	●芸術活動をとおした多様性協働プロジェクト ●多文化共生の現場を歩く	●アントレプレナーシップとスキル	
技能科目	実践科目	技能科目	実践科目	技能科目	実践科目

PHOTO:
2021年度「ネイチャーガイド演習1」

中村 侑太郎
（山梨県立大学 国際政策学部
国際コミュニケーション学科
3年生）

参加大学

・山梨大学
・山梨英和大学

事業協働機関

・山梨県
・公益財団法人山梨総合研究所
・公益財団法人やまなし産業支援機構
・公益社団法人やまなし観光推進機構
・公益財団法人山梨県国際交流協会
・一般社団法人Mt.Fujiイノベーションエンジン
・株式会社タンザワ
・萌木の村株式会社
・昭和産業株式会社

詳細はこちらから

PENTAS 山梨県立大学

こちらで情報を発信

Facebookページ

お問い合わせ先

山梨県立大学 飯田キャンパス 社会連携課

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1
TEL：055-225-5412
E-mail：cocr-pentas@yamanashi-ken.ac.jp
HP：https://www.pentas.yamanashi.jp/

山梨大学 地域人材養成センター支援課

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37　TEL：055-220-8449
HP：https://hr.yamanashi.ac.jp

山梨英和大学

〒400-8555 山梨県甲府市横根町888　TEL：055-223-6020
HP：https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/

2022年3月発行